

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201172		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム らくや		
所在地	山口県宇部市浜町2丁目1-3		
自己評価作成日	令和2年5月25日	評価結果市町受理日	令和2年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今日もらくやにはワイワイガヤガヤにぎやかな時間が流れています。これまでお付き合い下さった方々のご縁に支えられ開居から16年が過ぎました。“お互い助け合っていつも笑顔で楽しい我が家”を目標に、ご利用者同士、ご家族同士や近隣、知人の方々との関係も含め、時には親子のように、時には兄弟、親族のようなお付き合いがホームの中で繰り広げられています。“その人毎のその人らしい気兼ねのない生活”を守るため、“自分だったら・・・、自分の大切な人だったら”をケアの根底に置きおお手伝いすることを大切にしてきました。複合施設の中のホームという利点を活かしながら、地域のもっと根付ける活動も取り組みたいと考えています、これからも、慣れ親しんだ場所で、“昔ながらの大家族”のように補い合い、助け合い、思いやりながら、笑顔の絶えない楽しい我が家を、目指していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日々の関りの中で利用者に寄り添われ、笑顔になった場合や不機嫌になること、嫌がること、好きな歌、見入っている写真等に対して、その表情や言葉、反応を記録されて、入浴時やくつろいでいる時に聞いたことを含めて、様々な思いの把握に努めておられます。その把握された思いを利用者一人ひとりの個性に合わされて、日々の生活で活躍できる場面づくりやバラエティに富んだ楽しみごとの支援につなげておられます。身体拘束をしないケアでは「、当たり前3原則」の毎日の唱和や毎月の目標を定めた接遇トレーニングを毎日実施しておられ、内部研修では感じの良い話し方やプラスに聞こえる話し方を学ばれ、利用者の発言や思いを否定しないで受け止めることなど、スピーチロックのないケアに取り組んでおられます。食事は三食とも事業所でつくっておられ、拠点施設の栄養士の指導を受けて季節に応じた郷土料理や行事食、馴染みの料理、利用者の誕生日には本人の好きな出前(寿司、釜飯、弁当)を取っておられるなど、食事が楽しみなものになるように工夫されて支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	適宜、法人理念、運営方針、ホームの理念、当たり前3原則の唱和を継続しています。新人教育では常に伝え、生活支援者としての自覚を養うとともに、ご利用者個々のケアを検討する際に理念、方針に基づいた提供になるよう努めています	地域密着型サービスの意義をふまえた法人理念と基本方針を基に事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は毎日、昼礼時に、理念と「当たり前三原則」を唱和すると共に接遇トレーニング(言葉づかい)を行い、理念を共有している。日常のケアでは、「当たり前三原則」にある、自分や自分の家族が受けたいケアになっているかどうかを話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	複合施設の為、地域自治会の一つの自治区となり、地域の方々の夏祭り行事の協力、運営推進会議参加協力を頂いています。地域の行事への参加はご利用者の状況を見極め行っています。元利用者ご家族の行事の協力、玄関花のボランティア、里帰り時の訪問、野菜の差し入れ等お付き合いは続いています。買い物時、散歩の際のお付き合いも続いています。日常的な関りを増やせたらと思います	拠点内施設(介護老人保健施設、生活支援ハウス、ケアハウス、グループホーム)が一つの自治会となっている。利用者は、自治会主催のどんど焼きや文化祭、夏祭り、クリスマス会に職員と一緒に参加している。文化祭では見学と歌の出演をし、夏祭りには盆踊りに参加、クリスマス会では演芸鑑賞を楽しみ、家族や地域の人、施設の利用者の人と交流している。元利用者の家族が里帰り時に来訪したり、定期的に玄関に季節の生花を生けに来訪している他、年末のフラダンスや夏祭りの手伝いには地域から3組のボランティアが来訪している。地域にある図書館の利用や馴染みのスーパーマーケットでの買物時、散歩時には地域の人と挨拶を交わし、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。ラン仲間マラソンに利用者と職員が参加している。大学医学部の学生や看護、介護、リハビリ各専門学校の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者の気持ちには留意しながら、看護・介護・リハビリ専門学校や、就業されている方、再就業を検討されている方々の実習、施設見学の受け入れを行っています。ご利用者、ご家族と共にRUN伴に参加、山口県認知症カフェサミットボランティア、宇部市ふるさと元気懇談会の参加を通して認知症理解への啓発に繋がるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員個々の自己シートからホームの自己評価を作成しています。自己評価シートの活用も定着してきており、評価が自身の振り返り、気づきとなり目標を日々意識して取り組むことが職員一人一人の資質の向上に繋がっていると実感しています。外部評価も受審回数を重ねる度に助言、励ましを下さり私達の良き応援者であると実感しています。</p>	<p>ユニットリーダーが、ユニット会議の中で評価の意義を説明して、事業所独自の評価シートを配布している。職員一人ひとりが一年間を振り返り、項目に基づき実践内容の反省や気づき、改善点、次年度の目標を記録して自己評価を行い、各ユニットリーダーを通して管理者がまとめている。職員は、自己評価を通して日々のケアやサービス内容を見直し、新たな課題を見つけている。管理者は、自己評価がやる気を起こすきっかけとなるように、今後は面談を合わせて実施することを検討している。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、災害時の地域の協力体制が得られるよう連絡網づくりや避難訓練への参加者を増やすための運営推進会議の活性化など、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5	(4)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現況、リスク、身体拘束廃止と感染症防止の取り組み、行事等の報告、地域行事の紹介や市からのニュースを頂いています。ご利用者自身も含め、参加者には必ず発言頂き、ご意見を直接聞く機会として大切にしています。離脱発生時に玄関施錠の討議、職員不足に対して励ましの言葉を頂いたのが印象に残っています</p>	<p>会議は年6回開催している。(昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為1回中止)利用者と職員の状況、行事報告、委員会(リスクマネジメント、感染対策、身体拘束廃止)活動、行事予定、事故、ヒヤリハット報告、外部評価結果、家族アンケート結果等を報告した後、話し合いをしている。会議の参加者が増えるように、拠点内の家族交流会と同日に開催しているなどの工夫をしている。参加者からは、地域行事の紹介や熱中症や感染症予防、お口の体操のパンフレット配布、離脱防止の為に玄関の施錠をしたらどうかの意見があり、施錠は身体拘束であり、離脱時の見守りの仕方について説明することで施錠をしないことを納得してもらおうなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>今年1月に実地指導を受けました。担当課とは運営推進会議への参加協力、事故発生時の報告、事業所の運営上や入居対応の相談への助言・指導、又、昨年よりご利用者の申請なども電子申請が可能となっており、現状下での安全な手続き支援に繋がっています</p>	<p>市担当者とは、運営推進会議時や実地指導時、電話、「ふるさと元気懇談会」や「認知症カフェサミット」会議に直接出かけて、情報交換や申請内容の手続き、運営上の疑義、事例等の相談をし、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換を行い連携を図っている。</p>	
7	(6)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>“当たり前3原則”の遂行、教育委員会での研修、ホーム内研修、身体拘束廃止委員会活動を継続し、“ご利用者の今いる世界での発言や思いを否定しない”、知識を深め自身の言動に留意しながら、不適切ケアで更に高まるリスクを理解し取り組んでいます。運営推進会議で“安全の為の施錠を”と意見を頂きましたが、施錠も拘束と捉え、ケアの見直しやご家族の協力も視野に、これからも施錠しない環境を維持したいと考えます</p>	<p>職員は、毎日の昼礼での「当たり前3原則」の唱和と身体拘束廃止マニュアルを基にした拠点内研修や内部研修、月1回開催している身体拘束廃止委員会の報告等を通して、身体拘束、虐待の内容や弊害について正しく理解している。毎月、目標を定めて接遇トレーニングを行い、感じの良い話し方やプラスに聞こえる話し方を学び、スピーチロックのないケアに取り組んでいる。利用者の発言や思いを否定しないで受け止めることや「当たり前3原則」を基にケアを振り返っている。玄関には施錠をしないで、離設の見守りの仕方を細かく決めて、利用者一人ひとりのケアプランに活かしている。外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけたり、気分転換を図るなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
8		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束廃止委員会、年間に2回以上の研修、「当たり前3原則」の実行を続けています。全職員が目でご利用者の表情や態度から読み取る力を養っています。職員の適正、就業環境にも着目し、上手くいかない対応に対しては思いや悩みを共有し検討、実践することで虐待につながらないように取り組んでいます</p>		
9		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、お一人の方が制度を利用され、お一人のご家族が制度の利用を検討中です。ご利用者の様々なご事情、生活環境から制度の利用は高まると感じています。さらに正しい知識を深め情報提供等を通し活用の推進に繋がればと考えます</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を検討される際は、現入居者への配慮をしたうえでご見学からお勧めし、ホームの雰囲気を感じて頂きながら情報提供、質疑応答を通し判断いただくように努めています。契約時の約款説明や改定内容の丁寧な説明に心がけ、必要に応じ代理人以外の方へも説明を行う等、安心した契約、同意となるよう努めています		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂く事でホームの成長を・・・と考え、ご意見箱の設置、ホーム内相談担当者、第三者委員、外部相談機関の表示を、重要事項説明書や玄関明示し、ご契約、面談時には口頭説明も含めお願いしています。年に一回のご家族アンケートも配布先を増やし、気軽により多くのご意見を頂けるよう努めています。	苦情相談の受付体制や処理手続き、第三者委員を明示し、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、拠点内家族交流会、行事(誕生日会、夏祭り、文化祭、クリスマス、外出行事)参加時、電話で聞いている他、年1回の家族アンケートで聞いている。意見箱を設置している。管理者は3カ月に1度、家族宛に利用者の暮らしの状況を事業所便りで知らせるとともに、来訪時には管理者やユニットリーダーの方から利用者の日頃の様子を伝えて、家族が意見や要望が言いやすいように工夫をしている。家族からの意見は苦情受付簿に記録し、ケアに関する要望は生活日誌に記録して職員間で共有している。個別ケアに関する要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティング、法人内の小委員会活動、提案箱の設置、ユニットリーダー、副リーダーでの意見の取りまとめ、提案、検討でより良い生活づくりに取り組んでいます。新人職員が発言しやすい環境づくり等検討出来ればと考えています。	管理者は、2カ月に1回の全体ミーティングやユニットミーティング時、拠点内の委員会活動(リスクマネジメント、身体拘束廃止、感染対策)、小委員会活動(CS、教育、美化、広報、レク)の中で職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でいつでも気軽に意見を聞いている。新人職員には勤務終了時には必ず言葉をかけ、困ったことや心配なこと、分からなかったことは無いかを尋ねて、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは研修の希望や勤務体制についての意見があり、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の就業時における身体、精神的な負担に対して理解をし、各職員の健康、家庭環境における就業時間の工夫等、職員間の協力を得て行っています。資格取得を目指したり、産休職員もおり、応援できる体制を整えたいと考えていますが、職員不足の為の解決の手立てを模索しています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時には個人の適正を把握しながら、ご利用者との関係づくりに重点をおき、段階に応じ時間帯別業務を取得しています。拠点施設全体で行う研修やホーム内研修は極力多く受講できるよう勤務調整を行ったり、希望や段階に応じて外部研修を受講する機会も作っています。外部研修参加者は伝達講習を行い、共に知識向上に繋がるよう努めています	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は認知症ケア学会への参加や認知症介護実践者研修、心の状態を整えるセルフケア研修、看取りについて参加している。受講後は復命書を提出し、ミーティングや内部研修の場で伝達講習を行い、資料は配布して職員全員が共有している。拠点内研修は、教育委員(2名が参加)が年間計画を立て、外部講師により、実施(感染症防止、身体拘束、虐待防止、メンタルヘルス、ノロウイルス対策、看取りケア、水回りの衛生管理、プライバシー保護)の講義に参加している。内部研修は毎月、ユニットミーティングの中で管理者と職員が講師となって、救命救急法とAEDの使用方法や身体拘束廃止、虐待防止、リスクマネジメント、転倒防止、応急処置、感染症防止、防災害、認知症ケアと記録等を実施している。新人研修は法人研修の後、事業所内で日常業務の中で3週間、先輩職員からマンツーマンの指導を通して介護の知識や技術を学べるように支援している。資格取得については休暇の便宜を図っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では小委員会活動、共同行事、研修での交流、RUN伴開催準備や全国・県GH協会、介護福祉士会、認知症ケア専門会等での部会、研修会で様々なネットワークが構築できていると感じています。同業者同士として意識を高めあいスキルアップに繋げ、得られた情報は職員間で共有しホームの生活に役立てられるよう検討しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から思いをしっかりと傾聴し、情報は大切に全職員で共有します。初めての見学から、話しやすい環境・雰囲気を作り、日常会話からの引き出しや、態度・表情からも思いをくみ取るよう努めています。情報から入居までの流れをその方毎検討する等、受け入れ体制を整え安心して打ち解けて下さるよう心がけています		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	色々な思い、不安を抱えていたり、家族間の思いの相違等で関係性が危ぶまれていたり、様々な問題を抱えておられる事を全職員が理解し、話しかけやすい相手、環境となるべく努めています。面会を増やして頂いたり、適宜近況報告する等、少しでも不安を和らげて頂けるよう働きかけています		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、ご本人、ご家族の思い、希望内容を把握しそれに適したサービス提供を検討しています。入居までの待期期間も含め、必要に応じて他サービスへの情報提供や調整、他GHへの紹介を行い早期に安心して頂く支援になるよう努めています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上での活動協力は多く、感謝の気持ちは必ず言葉で伝えるよう心がけています。関係性が深くなる程、人生の先輩としての助言、励ましで職員の士気を高めて下さったり、周囲への折り合いの調整をして下さったりと支えられる場面の方が多いと感じています		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に近況報告する機会づくりは続けています。本人と家族の関係を第一に考え、可能な限り介護への思いは家族に合わせて検討するよう努めています。職員だけでは阻止できない危険回避や食事のお手伝い、散歩、外出支援等協力頂く場面は多いと感じています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流は、来て頂く事が多く、来訪者の方へは“又来たい場所”になるようお付き合いさせて頂いています。かかりつけ医での診療継続、クラブ活動参加への援助等していますが、他所はご家族へ協力頂く事も増えています。直接繋がれなくても会話の話題に取り入れる等、懐かしんだり、関係の継続に繋がるような支援に取り組んでいます	家族の面会や親戚の人、幼なじみ、近所の人、同級生、趣味(花、カラオケ)仲間、同僚の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。来訪者とは写真を撮って、またの来訪を約束している。職員と外出した際には、馴染みの神社や空港、自宅周辺をドライブしている。拠点内のクラブ活動(歌の会、絵画クラブ、習字)に参加している。アルバムを持参してもらい馴染みの場所や馴染みの人の話題に触れるように働きかけている。家族の協力を得て、一時帰宅や寺参り、法事への参加、墓参、買物、外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係を保つ為に、疾患からくる不協和的発言や関係悪化の雰囲気は早期に気づき対応し折り合いをつけて頂くよう努めています。各々の個性を大切に、相性を見極め、共に暮らす者同士としてお付き合いして頂けるよう努めています			
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に入院が利用終了の事由となっています。入院、転院時の立ち合いや介護添え書による情報提供、再利用の為の居室保証制度、面会による関係の継続に努めています。利用終了後も家族の希望に応じ証明書等手続き協力や、これまでの繋がりから関係を続けて下さる家族も多く、行事協力や玄関の生け花、野菜の差し入れ等応援して下さっています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、お一人毎の生活リズム、スタイルを保った支援を・・・と考えています。意思表示が困難な場合、表現しやすい方法の検討や、表情・態度から読み取る等、思いや意向の把握を心がけています。生活環境変化に伴うダメージを理解し、混乱回避の為の協力をご家族に頂きながら、その人毎の気兼ねのない生活づくりを目指しています	入居前には、自宅訪問や前入所施設からの情報を得て、環境状況や生活歴、本人や家族の希望、好きなこと、趣味等を収集して入居調査票に記録している。入居後はセンター方式のシートを活用してアセスメントをしている他、日々の関わりの中で利用者の傍に寄り添い、笑顔になった場面や不機嫌になったこと、嫌がったこと、好きな歌、見入っている写真等、表情や言葉、対応を記録して思いの把握に努めている。困難な場合は家族からの情報や、職員間で話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、身近な方からの情報や、サービス利用や入院があった方は、関係機関との面談や書面による情報を頂き、入居時調査票やアセスメントを作成、全職員が共有し把握したうえでお一人毎の意向に沿った生活づくりに努めています		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を、健康管理・生活記録に記し、就業前には一読、口頭での申し送り等で把握に努めています。日毎その時毎により変化する“出来る力”を理解し、それに合わせた支援になるよう努めています。24時間シートの活用も検討し、より簡潔に把握、共有できるように取り組んでいます		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回アセスメントはセンター方式を使用し、居室担当が作成しており、それを基に本人や家族の意向、主治医・看護師等からの助言を含め作成しています。モニタリングは、ミーティング時の個別カンファ、チェックシート、記録等を基に行っているが24時間シート活用でのモニタリングも今後検討したいと考えています	隔月毎のユニットミーティング時に、利用者を担当している職員が中心となってケア内容を検討している。計画作成担当はそのケア内容を基に、本人や家族の思いや意向、かかりつけ医、看護師等の意見を参考にして、介護計画を作成している。3ヶ月もしくは6か月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状況や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理・生活・受診記録があり個人毎のファイルを作成しています。些細な言動、対応等細かな記載が生活支援に重要であることを理解し、職員個々の記録力の向上と、そこから読み取り適切な支援に繋げる力の向上に努めています。今後、生活記録から家族との関わりの記録を独立させたいと思っています		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院との関わり、入退院時の送迎も含めた連携、医療連携での訪看、リハビリの為に通院や特指示を受けての訪問リハ、訪看の医療処置等、出来るだけニーズに沿える支援を心がけています		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、防災設備会社での防災設備等の定期的な点検でホーム内の安全を確保したり、寺院、公園、商店の活用、地域交流への参加や、逆に実習施設として活用して頂く事を続けています		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に沿ってかかりつけ医、他科への受診支援を行っています。出来るだけ診療に関わることで主治医がホームの実情を把握した治療方針を検討下さったり、些細な事でも相談にのって下さったりと連携は深められていると感じています。又、本人の受診までの準備、安全な通院手段の検討を含め、安心して診療を受けて頂くよう心がけています。現在、お一人の方は訪問診療による医療を受けられています	本人、家族の希望するかかりつけ医としている。他科受診も併せて事業所で月に1回から2回受診支援をしている。必要に応じて家族が同伴している。歯科も必要に応じて受診支援をしている。結果は受診記録に記録して、職員間で共有し、家族には電話で報告している。訪問看護師が月2回来訪し、利用者の健康管理や医療ケアを行っている。休日、夜間、緊急時には訪問看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携での月2回の訪看面談では、小さな変化・気づきを相談、細やかな助言や指導を受けそれに沿った支援を継続しています。看護職から訪問後に主治医の報告、相談して下さったり、指示によりホームでの処置を行ったりと、本人にとって「不安を取り除く医療ケアを・・・」と取り組んでくださっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した治療を受けられるよう、居室保証システム、入退院時の同行、面会、情報提供・収集・カンファ参加等の支援は続けています。入院先にも地域連携のシステムが構築され調整・連携が図りやすくなりました。関係性も深められていると感じます		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	“重度化及び看取りに関する指針”にて説明、意向確認、同意を継続して行っています。その時毎の状況変化に合わせて、本人、家族、主治医、看護と検討、協力、連携を図りながら意向確認を繰り返し行い、最良な生活が提供できるよう努めています	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を家族に配布して説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は早い段階から家族や主治医、訪問看護師、職員等、関係者が話し合い、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止への意識をヒヤットした段階から持ち、危険性を予見し防止する力を養う努力をしています。事故防止活動、回避が難しい危険性に対する検討、研修、マニュアルの遂行、ケアプランへの反映をしています。急変時の応援要請、応急処置、迅速かつ適切な対応が行えるよう訓練を行うと共に、必要時は市への報告も行っています	事例が生じた場合は、事故、ヒヤリハット報告書に発生状況や対応を記録し、対策についてはミーティング時に職員間で検討し、昼礼時に周知している。月1回の拠点内のリスクマネジメント委員会に報告して、一人ひとりの事故防止に努めている。職員は年1回、消防署主催の救命救急法とAEDの使用方法を受講し、事故防止マニュアルを基に、拠点内研修や内部研修で事故防止や応急手当、感染症防止等の研修や実践研修(感染防止、転倒、骨折、喉の詰まり、誤薬等)を定期的を実施して、実践力を身に付けるように取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に対する訓練・研修・マニュアル・自己点検表での安全確認は継続しており、常に危機意識を持って対処できるように取り組んでいます。又、風水害に関しても研修・マニュアルにて対処方法を確認し、事態の恐れがる時は事前検討・準備・避難の再確認を行う等、早めの備えに心がけています	今年度は夜間の火災を想定した避難訓練や通報訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者、地域住民も参加して実施する予定だったが、当日の大雨で中止した。事業所独自では年1回、内部研修として防災についての研修を実施している。拠点施設全体での緊急連絡網や職員の協力体制はある。地域との協力体制が得られるよう運営推進会議で災害時の対策についてや訓練参加の協力を呼びかけている。災害用の水は備蓄している。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時、守秘義務の重要性の指導をし誓約書を交わし、定期的な研修・接遇訓練・「当たり前3原則」の唱和の継続で、尊厳の大切さを学び日常的な意識強化に努めています。「自分だったら、自分の大切な家族だったら」を念頭に、一人毎に合った対応や言葉かけを実践しています。特にデリケートなケア時の言葉かけは自尊心を傷つけないよう細心の留意をしています	職員は拠点内研修(プライバシー保護、個人情報保護)で学び、毎日実施している接遇トレーニングや「当たり前3原則」の唱和等を通して利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は日常のケアの中で「もし、自分の親であったらどうするか」を常に考えて対応するように職員全員に伝えている。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の「伝える力」に合わせて、問いかけ方、傾聴、言動や表情等、言葉にならない言葉に耳を傾ける柔軟な姿勢で気持ちを汲み取るよう心がけています。遠慮せず何でも話して頂ける関係性の維持に努めています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース、希望に沿い一日の生活が画一的にならないようにと考えています。行事、活動参加等日々の状況毎に説明、意思確認、同意を得たうえで、必要に合わせ勤務体制や業務内容を変更し実現できるよう努めています。事故や健康に影響を及ぼす可能性がある時にはしっかり話し合いを行い理解を得ます		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から愛用している生活用品、化粧品の継続使用の為の補充、衣類の選択、好みの髪型、散髪の時期等、本人の「出来る力」に沿った意向確認で個性を大切にしているよう支援しています。外出、面会時の衣類、整容は細心に留意をし尊厳を護りたいと考えます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理音、香り等出来上がるまでの過程や、買い物から片付けまでの一場面でも参加し共に作る楽しみ、喜びを感じる事が食事に対する意欲増進に繋がると考え、三食ホーム内での食事作りを継続しています。栄養の偏りには留意をしながら、季節感、風習や行事食、この土地での献立、好物を活用し楽しみな時間になるよう努めています	食事は、差し入れの野菜等を使って三食とも事業所でつくっている。拠点施設の栄養士の指導を受けて季節感のある献立を立て、郷土料理や馴染みの料理、好きな料理等、食欲を高めたり関心を引くように工夫をし、食べやすいようにその日の利用者の状態に合わせて、むすびやうどん、お粥等、工夫をして提供している。利用者は、買物、米を研ぐ、野菜を切る、混ぜる、盛り付け、ご飯をよそう、お茶汲み、テーブルを拭く、食器をを洗う、食器を拭くなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、食材の話をしながら同じものを食べている。弁当持参での花見や誕生日には本人の好きな出前（寿司、釜飯、弁当）を取り、季節行事食（おせち、節句の寿司、恵方巻、土用の鰻、かぼちゃ、豆ごはん）、家族の協力を得ての夕食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患による調整、体調に配慮し適量の把握に努めています。食事、お茶時間に拘わらず食べやすい時間の検討、形態、援助方法等環境の工夫、家族の差し入れを含めた好物での捕食も取り入れ、リラックスした気持ちで食べる力の回復を目指しています。主治医に相談、助言を頂きながら栄養補助ドリンク、トロミ剤を使用している方もおられます		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	プライバシー配慮を目的に居室毎に洗面所を設置。口腔内の清潔が全身疾患予防に繋がる事を学び、理解したうえで、舌苔ブラシ・スポンジ・口腔シート等、個別に必要な用具の活用や、気持ちよく応じて頂けるよう言葉・働きかけを実践しています。“出来る力”の変化に早期に気づくよう留意をし、必要に応じ、歯科医師、衛生士の治療、助言、指導を仰ぎ取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	“出来る限りトイレで排泄”の働きかけを継続しています。排泄チェック表や生活記録を基にお一人毎の排泄パターンや、表情・行動から排泄意サインを把握、安全な誘導の為の援助者人数の検討、皮膚疾患防止の為のパット類も多種類活用し快適さを損なわないケアに努めています。支援時、尊厳の保持への細心の留意を心がけています	職員は排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。紙パンツやパットを使用時には根拠をはっきりさせて、家族にも説明をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて把握、対応を続けています。支援必要のない方の排便の有無・量の確認が難しく、本人の言動、腹部の張り、トイレの汚れの有無等から予見し必要に応じて主治医へ相談しています。適度な運動・十分な睡眠・水分補給・腹部マッサージ・乳酸菌やオリゴ糖の活用等、自然な排便への働きかけを行っていますが、やむなく薬を使用する際は本人の負担が最小限となるよう主治医へ相談したうえで対応しています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体衛生の目的の他に、リラックスや気分転換の場としての効果があると考えています。見守りだけで入浴可能な方は、時間、回数を定めず入って頂いていますが、長湯での体調不良等には留意しています。お一人毎に応じたタイミング、誘いかけ、援助人数・方法、湯温や時間での対応に心がけ、ゆっくりくつろげる場として支援に努めています	入浴は毎日、13時30分から16時30分の間、希望する時間に入浴できる。順番や湯加減、好みのシャンプー、ボディソープ、季節の柚子湯等、利用者の希望や好みに応じて、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。職員は入浴は皮膚状態の観察の場であり、思いを聞くことができる場ととらえている。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、手浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人毎の日中や就寝までの過ごし方、安心できる言葉かけ、就寝時・就寝中の環境、起床時間を検討し安眠を妨げないよう支援しています。眠れない時は無理強いせず共に過ごし、体調変化の兆し等眠れない原因の究明、解消に努めています。健康に影響を及ぼす危険がある時には、家族、主治医に相談し検討しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の説明書は適宜確認し、新たな処方、薬剤の変更には観察強化、記録で情報共有に努め、必要時は主治医、薬剤師に相談しています。マニュアルに沿った内服支援の遂行、内服拒否や飲み込みまで見守りを要する方へは焦らず確実に対応を行う等、事故防止に努めています。その時々を必要性を訪問看護や主治医、家族と検討し、減量を試みる等その人にとって最適な服薬となるよう心がけています		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、お一人ずつのお誕生日祝い、家事など好まれる活動への促しは、画一的にならないようお一人毎に合った場面を検討、他者との調和、調整しながら行っています。“出来る力”の低下で難しくなる場面もみられていますが“役にたちたい”“活躍したい”気持ちを大切に、方法を検討し、して頂いたことには必ず感謝を伝え達成感、喜びに繋がるよう実践しています	文化祭での歌の出演、クラブ活動(歌、習字、絵画)への参加、ラン伴マラソンに参加、雛祭り、節分の豆まき、七夕飾りづくり、敬老会、誕生日会、クリスマス会、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、新聞をたたむ、花を生ける、花の水やり、花壇の草取り、食材の買物や食事の準備、後片付け、袋をたたむ、郵便物を取りに行く、メモ紙づくり、本や雑誌、新聞を読む、テレビ鑑賞、ラジオを聞く、音楽を聴く、習字、ぬり絵、折り紙、絵を描く、歌を歌う、ゲーム、4字熟語、ジクソーパズル、百人一首、ゲーム、クイズ、音楽活動、ラジオ体操、部分体操、口腔体操等、一人ひとりのしたいこと、好きなことのできる場面を多くつくり、気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外出等日常の外出は周囲の状況を見ながら行うよう努めています。季節の外出行事はお一人毎の状況と体力を考慮して無理なく楽しんで頂けるよう人数の検討や、家族の協力、個別の対応を行っています。個別の希望に対しては、本人と日時の調整を行い、業務変更等の調整を試みたり、家族へ協力の働きかけを行い実現努力をしています	日々の散歩やスーパーマーケットでの買物、図書館の利用、季節の花見(桜、つつじ、菖蒲、紫陽花、バラ、紅葉等)、ドライブ(健康公園、琴崎八幡宮、常磐公園、湖水ホール、鶉ノ島公園、松寿神社、竜王山、北向き地藏、空港)、初詣、どんど焼き、神社、ラン伴マラソンに参加、拠点内のクラブ活動に参加、自宅周辺に出かけている。家族の協力を得て買物や外食、法事に参加、墓参、寺参り、一時帰宅等、利用者の希望にそって出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向確認しその方に合った支援となるよう対応しており、現在一人の方が所持されています。所持されている事でのトラブルには留意をしています。各自での所持が困難な方に対しては、お預かり金制度を活用して頂き必要に応じて、欲しい物、必要な物の購入をして頂いています。その際の取り扱い、管理についてはマニュアルに沿って行い事故防止に努めています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方との関係継続は大切な支援の一つと考えます。年賀状やメッセージカード等頂いた手紙は必要に応じ代読し温かい気持ちをお伝えしています。電話については、子機を使用しご自身の好きな場所で楽しまれています。いつでも自由に使用したいと、携帯電話を所持されている方もおられますが、頻度、時間帯の調整を行い、先方の負担軽減に努めています		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアによる玄関の生け花も続けて下さっています。台所、食堂を中心に居室が配置され、扉を開ければすぐに顔が見れる環境です。台所からの匂いや音、季節毎の行事の飾りや花、冬季のこたつや、檜風呂、縁側風の居間、五感に働きかけ心地よい空間づくりに努めています。衛生安全委員会の活動も含め、温度湿度管理、照明調整、悪影響に繋がる生活音等衛生、安全面にも留意するよう努めています	玄関には季節の花が飾ってあり、花壇の花と共に季節を感じることができる。リビングダイニングは外気浴のできるテラスデッキにつながっていて明るい。室内の中央にはアイランドキッチンがあり、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。室内には大きなソファや椅子を配置し、壁面には時計とカレンダーを掛けている。傍らの畳スペースは利用者が寄り添う談笑コーナーとなっており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができるように工夫している。温度や湿度、換気、明るさ、音に適切に配慮し室内の整頓、清潔に留意し、空気清浄器を設置して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺のチェアー、玄関先のベンチ、廊下のソファ、居間の畳等の座れるスペースや、多目的室の活用等、お一人毎思い思いに過ごし和める空間づくりをしています。過ごしたい場所が重なる為、仲介・調整をしたり、意思表示が困難な方は表情から汲み取る等、折り合いをつけながら、お一人毎、その時毎に過ごしたい場所で穏やかな時間に繋がるよう努めています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は障子、襖、畳の和室となっており、居室の扉、内装、照明器具、天井のデザインを居室毎変え、お一人毎の生活空間づくりを楽しんで頂いています。使い慣れた物、大切にしていきたい物等、なじみの物の持ち込みでホームで一番落ち着け居心地の良い場所にして頂きたいと思っています。本人の状況に合わせて衛生面、安全面の環境整備の支援も行っています	ベッドやテレビ、整理ダンス、衣装ケース、机、椅子、仏壇、時計、新聞、本、雑誌、ぬいぐるみ、座布団等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや家族写真、自作品、水彩画を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置、3サイズの食卓セット、浴槽と同じ高さの椅子で入りやすい浴室等、“出来る力”を發揮し、“出来ていること”を維持するための支援に努めています。お一人毎の身体状況に合わせて危険の洗い出しを行い、事故防止か、尊厳保持の優先かの検討を家族も含め行いそれに沿った環境整備を行っています		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム らくや

作成日: 令和 2 年 9 月 13 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	○災害対策 拠点施設全体での協力体制は構築できており、災害予測時毎の対応については申し合わせが行えている。運営推進会議などを通し地域の方々へのお願いを続けてきた中で数名の協力者は得られているが拡大に結び付かない	日常のお付き合いの機会を増やし、関係性を深めた中で、協力をお願いを引き続き行い、災害時に拠点施設全体で協力しあえる体制を築く	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会行事への参加の機会を増やす ・運営推進会議への地域の方の参加を増やす ・ボランティア活動の受け入れ等、ホームへの理解を得ながら、関係性を深める ・緊急時連絡網の充実 ・地域の方参加の訓練の開催 	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。